

## 創刊の辭

當研究所は、平成十七年（二〇〇五年）五月二十四日に創立され、今年をもって八年となる。

この間、關係者によって運営に努力してきたが、なにしろ員数は少數であり、その苦勞は大變なものであった。しかし、當研究所名譽所長であり、この研究所のために高額の寄付をされた故白川靜先生の御遺志にいささかお報いすることができたのではないかと思う。

そこで、次の新しい五年間は、白川學のさらなる展開をいたしたい。その中でも、文字學について、當研究所が日本における研究の中核となることを希望している。

幸い、木村秀海・關西學院大學教授を中心とする殷周史研究會が關西で研究活動をしていたので、木村秀海・末次信行・大形徹各氏と私との會合の結果、同研究會を漢字學研究會と改稱し、當研究所の部會とし、新發足することとなった。

そして、白川先生の大作『金文通釋』七卷・『殷文札記』一卷（平凡社）の續編として新しく單行本『金文通解』を、將來、逐次刊行することを目的として、その達成のために、漢字學研究會は會讀を行い研究を續けることとなった。

そこで、本誌『漢字學研究』を創刊し、平成二十四年（二〇一二年）四月よりの一年間の研究成果、ならびに諸研究を併せて登載することとなった。以後、毎年、本誌を刊行する。その刊行ならびに漢字學研究會の研究費は、當研究所の責任において負擔する。

廣くは中國古代の研究、限っては文字の研究は、地道な領域であり、研究者も多いとは言えない。それだけに、本誌は同研究者たちの有力な據點となるであろう。

學問に國境はない。まして所屬機關による分別など學問においてはほとんど意味がない。研究環境の厳しい今日、當研究所は、漢字學研究會を可能な限り充實し、本誌『漢字學研究』連載稿に基づく『金文通解』第一冊刊行の日の近からんことを期待している。

平成二十五年（二〇一三年）三月十日

立命館大學白川靜記念東洋文字文化研究所所長

加地 伸行